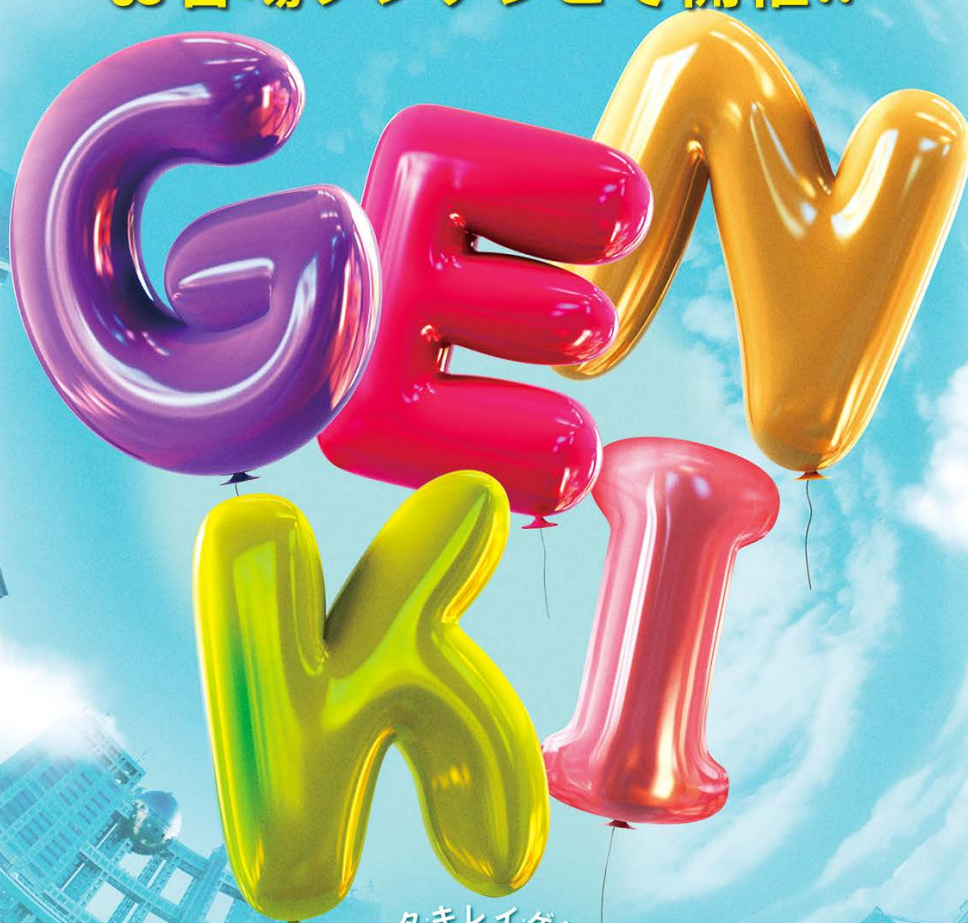


お台場フジテレビで開催!!



アシタキレイゲンキ

ANTI AGING
FAIR

アンチエイジングフェア

2017

in 台場

あなたの新しいライフスタイルをサポートする、美と健康の4日間!!

9.21_{THU} - 24_{SUN} フジテレビジョン本社屋 入場料無料
10:00~17:00

「アンチエイジングフェア 2017 in 台場

9月21日（木）～24日（日）の4日間で65458人が来場！！

実施報告書

日本抗加齢協会

アンチエイジングフェアの意義

フジテレビジョンと日本抗加齢協会の共催による「アンチエイジングフェア 2017 in 台場～アシタ・キレイ・ゲンキ～」が、9月21日～24日までお台場のフジテレビ社屋で開催され、4日間で昨年の52000人を大きく上回る65458人の方々が来場しました。後援は厚生労働省、農林水産省、経済産業省、消費者庁、日本医師会、日本抗加齢医学会、産経新聞、ニッポン放送、サンケイリビング新聞社、文化放送、扶桑社、サンケイスポーツ、夕刊フジ。



フジテレビ社屋前広場、1F シアターモール、22F 特設会場の3つの会場では、機能性表示食品等のサンプリングや、機能的年齢測定や糖化年齢測定、筋・骨・血管・神経・肌等の年齢チェック、ロコモ度チェックなどの様々な測定やその結果に伴うカウンセリングなどが各協賛企業のブースで行われ、

朝10時の開場前から行列ができるなど大盛況でした。「昨年も来て面白かったのでまた来ました」といったリピーターのお客様も目立ち、中にはセミナーのタイムテーブルを片手に、4日間セミナーに通い詰めた方もいらっしゃいました。



特に、機能性表示食品などの「食品の機能性」と「アンチエイジング」を一般消費者にアピールするといったイベントは前例がなく、行政と業界団体、メディア、アカデミアが連携したこのような試みは、機能性表示食品やアンチエイジングの消費者への普及・啓発という面で格段の効果があります。



アンチエイジングとは

抗加齢医学（アンチエイジング医学）とは、加齢という生物学的プロセスに介入を行い、加齢に伴う動脈硬化や、がんのような加齢関連疾患の発症確率を下げ、健康長寿をめざす医学です。近年急速に老化のメカニズムが科学的に解明されるなど様々なエビデンスが出ています。我が国の喫緊の課題である多くの人々の健康長寿の達成、健康寿命の延伸には、人々の意識と科学的な根拠に基づく実践があってこそ達成するものです。イベントを通じて日比野生活の中でアンチエイジングを意識してほしいと願っています。

4 日間の模様をダイジェストで紹介

オープニングセレモニーでは、主催の日本抗加齢協会 森下竜一副理事長(大阪大学大学院教授)、昨年に引き続きアンバサダーを務めるタレントの RIKACO さんの挨拶の後、加藤勝信厚生労働大臣が登場。



加藤大臣は「現在、日本では 90 歳を超える方は 200 万人という状況になっております。政府では「人生 100 年構想会議」というものを立ち上げて、100 年というスパンで人生を見ながら、ある時は学び、ある時は仕事をし、といった高齢者の方々の多様性に対応した社会を作っていこうということで、「人づくり革命」、「働き方改革」を進めております。その中で根底にあるのが健康であり、健康長寿をいかに獲得していくのか？といった考えがアンチエイジングにつながるのだと思います。今回のフェアでは出店のブースのあちこちで機能性表示食品を見ることができないのではないかと思います。2015 年 4 月からスタートした制度で、これは国としても新しいチャレンジとなったものです。今までは、まず国が規制を作ってチェックを受けなければ販売ができない仕組みでしたが、今回の制度は企業が自分の責任で科学的根拠を届出することによって販売でき、その機能も PR すること、表示することができます。そして現在 1055 の機能性表示食品が生まれてきています。どういう成分が入っているのか？それがどういった役割や機能が見込まれるのか？を考えて、さらにご自分の健康状態もチェックしたうえで、トクホや機能性表示食品や、場合によっては医薬品などを上手に使い、日々の食生活を改善することなどにも気づいていただき、自分の健康寿命をしっかりと伸ばして、アンチエイジングに新たに挑戦していこうという輪を広げていただければと思います」と

祝辞を頂きました。





日本抗加齢協会主催のセミナーも連日開催多くの一般客が熱心に聞き入る。

日本抗加齢協会主催のセミナーを中心にご紹介します。

9月21日 日本抗加齢協会セミナー「最新のアンチエイジング」

講師：森下竜一氏（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学教授）



「予防医学」という言葉は「心身共にいつまでも健康で過ごすためのライフスタイルを保つ」といった幅広い意味合いの言葉です。アンチエイジング医学が注目されてきた背景には、エイジングのサイエンスが進み、加齢は細胞生物学的なプロセスのひとつとして、介入の可能性があることがわかってきたことも大きく、アンチエイジングは決して外見の若返りの特效薬などではないということを、一般の方々にサイエンスを交えて解説しました。

9月21日 健康食品産業協議会 / 日本抗加齢協会共催セミナー

「それってどう違うの？トクホ・栄養機能食品・機能性表示食品」

講師：大野徹氏（健康食品産業協議会 事務局長）



機能性表示食品や特定保健用食品（トクホ）のそれぞれの制度の解説と違いを分かりやすく解説しました。特に実際にメディアで流れている機能性表示食品のコマーシャルを多用し、具体的に説明をしたことで、一般の聴講者からわかりやすかった好評を博しました。

9月22日

「健康・長寿、延命、食の機能性、運動等をテーマにした研究成果の発表」



北野隆司氏(京都医療センター内分泌代謝高血圧研究部)の「腸内細菌叢を標的とした新規新血管病予防法とオーダーメイド栄養プログラムの開発」、辻本和峰氏(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子内分泌代謝学分野)の「Fibroblast growth factor 21(FGF21)遺伝子に着目したエピゲノム記憶の分子機構とその機能的意義の解明」、など4つの研究が受賞し、表彰式と記念講演が行われました。

日本抗加齢協会に吉川敏一理事長がプレゼンターを務めました。

9月22日 日本抗加齢協会セミナー

「認知症予防」

講師：森下竜一氏（大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学教授）



「アルツハイマー型認知症は脳の糖尿病」の著者でもある森下氏が、認知症と糖尿病の関係をわかりやすく解説。中年期から糖尿病に注意していくことはそのままアルツハイマー型認知症の予防にもつながります。砂糖や果糖などを制限する「糖質制限」は血糖値の急上昇や乱高下を防ぎ糖尿病の予防に有効ですが、糖質を全く摂らない極端な糖質制限はあまり推奨できません。

抗加齢内分泌研究会セミナー

「アンチエイジングから見たロコモ対策」

講師：米井嘉一氏（同志社大学 アンチエイジングリサーチセンター教授）



ロコモティブシンドローム（運動器症候群）は女性に多く、進行すると日常生活に支障をきたします。ロコモの原因は女性ホルモン、成長ホルモン、副腎 DHEA、メラトニンなどのホルモンの分泌が低下で、骨からミネラル分が失われ骨折しやすくなって筋肉も衰えてきます。さらに糖化ストレスによって身体の中の蛋白質が変性を起こし、コラーゲン蛋白質の糖化やエラスチン、プロテオグリカンなど

の糖化蛋白が口コモに関係しています。生活習慣の改善により、ホルモンを若く保ち糖化を防ぐ方法が具体的に解説されました。

9月23日(土)

「酒池肉林」の攻略-アンチエイジング de よりよき健康生活を-

講師：松崎靖司氏 (東京医科大学霞ヶ浦病院 消化器内科教授)



疲労はどうして起こるのか?ヒトが活動すると筋肉や脳内などで大量の酸素を使い、その過程で活性酸素が発生します。これが疲労の原因。年をとってくると、疲れやすく、体の無理がきかなくなってきました。実は疲れと老化のメカニズムは同じ。疲れを放っておくと老化のペースを促進してしまいます。

日本抗加齢協会セミナー

がんは食事で予防する

講師：渡邊昌氏 (日本総合医学会会長)



日本人の3人に1人ががんで死んでいる事実はよく知られるようになりましたが、がんの発生原因の70%が食習慣と喫煙となっています。がんは日頃のライフスタイル、特に食生活の見直しで予防が可能であり、1980年代に国民栄養指針を示して実施したアメリカでは、がんの死亡率を1割減少

させることに成功しました。その食事指導はがんだけでなくすべての生活習慣病も予防できる。またがんの予防だけでなく、がんになった後、がんと付き合う食生活習慣のお話も聞けました。

日本抗加齢協会セミナー

「禁煙について考える。受動喫煙はどんな影響を与えるのか」

講師：溝尾朗氏（東京厚生年金病院 部長）



禁煙は健康維持に欠かせません。タバコは趣向品ではなく依存性薬物。禁断症状は軽いですが、依存症は麻薬並みに強く、アルコールや麻薬と同じようにその依存症という病気を治すためには、医師による薬の処方とサポートが必要です。何メートルも離れた距離でも吸っている人と同じ影響を与えてしまう受動喫煙についても詳しい解説がありました。

抗加齢内分泌研究会セミナー

アンチエイジングに効く睡眠ホルモン

講師：服部淳彦氏（東京医科歯科大学・教養部・生物学・教授）



「現代型不眠症」の原因の一つが、「松果体」から分泌される体内リズムを調節するホルモン「メラトニン」の低下。メラトニンの分泌量のピークは幼児期で、加齢と共に低下します。私たちが老化して行く要因の一つが、体内の酸化。その酸化を引き起こすのが、活性酸素とフリーラジカルです。メラトニンは、これらの物質を消去できる性質をもち、また骨粗しょう症や認知症の予防効果も期待されています。そこで、メラトニンの分泌を増やすための生活習慣を伝授しました

チャリティーイベント



世界の子どもたちの実情概要

キヤスターとして初めて長期の取材にあたった、佐々木燕子アナウンサーを司会に、森本さやかさん、山中章子さん、内野泰輔さんの各アナウンサーと取材時の画像を出しながら、子どもたちとの取材時の思い出や、苦労話を交えながら下世界の子どもの置かれた厳しい実情～貧困や児童労働、人身売買」等を紹介、解説しました。

トップアスリートの健康管理とアンチエイジング

出演：三宅義行氏 / 三宅宏実氏 / 山田秀和氏



東京オリンピック重量挙げフェザー級で銅メダルに輝いた三宅義行氏とその娘でロンドンオリンピック 48kg 級銀メダル、リオデジャネイロオリンピック 48kg 級銅メダルに輝いた三宅宏実氏のトークセッション。日本抗加齢協会理事で近畿大学医学部奈良病院皮膚科の山田秀和教授が専門家の立場からコメント

ータを務めました。

以上